

# 別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」

足立区立平野小学校 校長 葛谷 裕治

		アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標 (=数値) <いつまで・何を・どの程度>
1	継続	スキルアップタイム	全児童 国語 算数	原則として毎日 (B時程・土曜 授業日除く)	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 漢字・計算の基礎を身に付ける。 学力を定着させ、弱点を克服する。 【使用教材】次へのステップ、東京ベーシックドリル 学力調査類似問題、漢字・計算プリント	単元ごとのワークテスト (全校で共通した成績ファイルを使用し、学力向上委員会で確認)	全児童の国語と算数のワークテストの平均点87点以上の結果を出す。 現学年調査は目標値の通過率75%
2	継続	放課後補充教室	全学年 目標値に達していない児童 国語 算数	原則として毎日 (月別に学年を指定)	【指導体制】専科、学習支援ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 つまづきをさかのぼり、少人数指導を行う。 反復して学習させることで基礎学力の定着を図る。 【使用教材】漢字・計算プリント 学力調査過去問題	放課後補充教室に実施する確認テスト 学力調査の再調査 (全児童対象) 9・1月実施 現学年調査2月実施	学力調査の再調査は目標値の通過率100%
3	継続	長期休業期間中の補充教室	全学年(春季は1~5年) 国語 算数	夏休み13日 (1・2年は8日間) 冬休み 3日間 春休み 3日間	【指導体制】担任・専科・学習支援ボランティア 【取り組みのねらい・目的】 学力調査や過去問題を使った再調査等で目標値に達しなかった児童を中心に問題を解き直したり、補充問題に取り組んだりすることで、基礎学力の定着を図る。 【使用教材】漢字・計算プリント、学力調査過去問題・類似問題、東京ベーシックドリル、次へのステップ	学力調査の再調査 (全児童対象) 9・1月実施	学力調査の再調査は目標値の通過率100%
4	継続	「学年別家庭での自主学習」の発行	全児童 全教職員	4月に配布	【取り組みのねらい・目的】 保護者会資料として配布し、家庭にも学力向上への取り組みに理解をしていただく。 宿題が未提出の児童は、その日の内に放課後等の時間を使って終わらせる。 全校で毎日、漢字、算数、音読の宿題を出すように共通理解を図っている。	宿題提出簿 家庭生活調べ	宿題提出率100%
5	継続	読書活動の推進	全児童	読書記録は年間を通じて取り組む。 火・水・木曜日	【取り組みのねらい・目的】 全校児童で年間の読書冊数60,000冊を目指す。毎日の生活の中で読書の時間を確保し、読書に親しみ、考える力や想像力を育む。	全校共通の読書記録 図書室貸し出し状況の調査	年間読書冊数全校児童で60,000冊。

				<p>の朝読書 読書旬間－6月 読書月間－10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書（週30分×35週＝1050分）</li> <li>・読書記録への記入</li> <li>・図書委員会による本の紹介等</li> <li>・教師による読み聞かせと本の紹介</li> <li>・読書旬間－低学年20冊、高学年500ページ</li> <li>・読書月間－低学年40冊、高学年1000ページ</li> <li>・年間読書冊数の目標を各学年ごとに設定する。</li> </ul>	<p>読書旬間・月間の目標達成者は校長室に報告に来る</p>	<p>年間個人読書冊数 1年－250冊 2年－210冊 3年－130冊 4年－100冊 5年－80冊 6年－70冊 4組－130冊 6割達成</p>
6	継続	百人一首旬間	全児童	7月と12月	<p>【指導体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 日本の伝統文化である百人一首に親しみ、古語の響きの良さに気付かせる。 【使用教材】小倉百人一首、五色百人一首</p>	百人一首暗唱カード	各学年で20首ずつ覚える。
7	継続	俳句コンクール	全児童	6月と10月	<p>【指導体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 身近な生活の中で感じたことや自然現象などを、短い言葉で表現することにより、物事を見つめる目を養い、豊かな感性を養う。 ・俳句コンクール（6月・10月） ・校長室前に俳句箱を設置し年間を通して俳句に取り組む。 ・外部の俳句大会にも応募する。</p>	俳句作品展	5・7・5のリズムで季語を用いた俳句を作る。
8	継続	足立スタンダードに基づいた授業展開、校内での共通理解に基づいた指導体制	全教職員 全児童	年間を通じて	<p>【指導体制】全教職員（授業者） 【取り組みのねらい・目的】 足立スタンダードに基づいた授業を展開することで、児童の考える力、話し合いをする力を身に付けさせる。 ・系統立てて学年別にノートを選定し、特に低学年は、マス黒板を使って指導する。 ・ワークテスト（国・算）を全校で統一し、成績入力方法を統一し、経年比較ができるようにする。 ・漢字の速習（2～6年生は12月まで、1年生は1月までに当該学年で学習する漢字の指導を終える。）</p>	<p>管理職、教科指導専門員による授業観察  ワークテストの経年比較データの活用</p>	全教職員が本時のめあてとまとめを意識し、足立スタンダードに基づいた授業を展開する。
9	継続	授業力・指導力の向上	全教職員	年間を通じて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間8回の小中連携</li> <li>・全教職員による教科別分科会と授業研究を実施</li> <li>・区や都の研修会への参加、のべ100回以上</li> </ul>	<p>連携3校の管理職による研究会参加 区小研への参加 分掌に関わる命令研修以外に研修へ参加</p>	<p>全体会2回、 授業研究6回実施 区小研への全員参加 一人4回以上研修会に参加</p>

